

TDB 景気動向調査(全国・概要)

2006年4月調査

2006年5月12日

お問い合わせ先：株式会社帝国データバンク 産業調査部

電話：03-5775-3163 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

http://www.tdb.co.jp/

景気動向調査専用HP http://www.tdb-di.com/

景気DI、前月比0.3ポイント減の47.6、原油高・円高で3カ月ぶりに悪化

～ 先行き見通しDIも3系列すべて悪化、景気回復の持続力に不透明感 ～

(調査対象2万262社、有効回答企業9,445社、回答率46.6%)

2006年4月の景気動向指数(景気DI：0～100、50ポイントが判断の分かれ目)は47.6となり、前月比0.3ポイント減と3カ月ぶりに悪化した。

前月(3月)は、日銀が量的金融緩和政策を解除するなど脱デフレへの道筋がより鮮明になってきたことや、雇用増・賃上げによる個人消費への刺激期待の高まりによって、景気DIは原油・素材価格が高止まりするなかでも今回の景気回復局面での最高水準となっていた。

しかし、4月に入りNY原油先物市場で原油価格(WTI期近)が一時1バレル=75ドルを突破するまで急騰。これにより収益悪化を懸念する化学や鉄鋼・非鉄関連業界を中心に景況感が悪化したほか、ガソリン価格の高騰が消費マインドに悪影響を与えたとの見方が浮上してきたことなどから、自動車やアパレルなどの小売関連にも景況悪化が波及した。

また、米国の利上げ打ち止めと日本のゼロ金利解除シナリオ観測による円高ドル安の進行で、電機や機械関連業界などの景況感が後退。貸出上限金利の引き下げ議論の台頭によるノンバンクの業況悪化懸念も、全体の景況感を押し下げた。

今後については、「3カ月後」、「6カ月後」、「1年後」の先行き見通しDIがいずれも悪化。特に、「1年後」が「6カ月後」を下回る水準が4カ月続くなかで3系列中最大の悪化幅となっており、中・長期的な景気回復に対する不透明感が増していることがうかがえる。

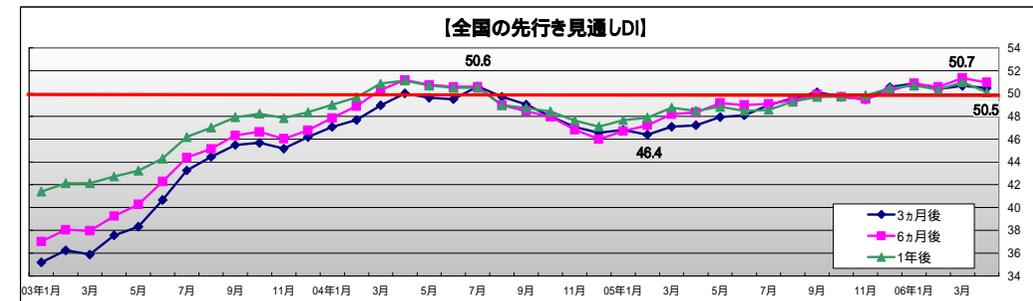
産油国での核開発問題の緊迫化や夏の需要期を控えて原油高がさらに進行するとみられていることに加え、東京外国為替市場で一時1ドル=110円台に突入するなど円高リスクも一層高まっている。実際、「原油の高値や円高基調により、今後の輸出に陰りが出る」(平鋼製造、岡山県)との指摘は少なくない。また、増税・ゼロ金利解除後の個人消費への不安や金利上昇による企業業績への影響懸念も、国内景気の先行き期待を萎縮させている要因として挙げられる。

国内経済は着実に脱デフレに向かっており、全体の景況感は今後も下支えされるとみられるものの、原油価格や為替、個人消費の動向など先行きに対する不安要因はさらに深化する様相を呈していることから、しばらくは現水準での推移にとどまるものと思われる。



景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	前月比
全体	43.1	43.3	43.5	43.0	44.0	44.6	45.5	46.0	46.2	47.0	46.9	46.9	47.9	47.6	0.3



先行き見通しDI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	前月比
3ヵ月後	47.1	47.2	47.9	48.1	49.0	49.6	50.1	49.7	49.5	50.6	50.9	50.4	50.7	50.5	0.2
6ヵ月後	48.2	48.3	49.2	49.0	49.1	49.4	49.9	49.7	49.5	50.2	50.9	50.6	51.4	51.0	0.4
1年後	48.8	48.5	48.8	48.5	48.6	49.3	49.7	49.7	49.8	50.5	50.7	50.3	51.0	50.1	0.9

調査開始は2002年5月

業界別:10業界中'金融'、'小売'など6業界で前月比悪化

業界別では、10業界中『農・林・水産』(45.3)、『金融』(46.0)、『製造』(49.8)、『卸売』(47.1)、『小売』(43.9)、『サービス』(51.6)の6業界で前月比悪化した。

『製造』は、円高進行に伴い自動車や機械関連などが悪化したほか、原油価格の高騰で化学・鉄鋼関連も落ち込み、全体では前月比0.2ポイント減と判断の分かれ目となる50ポイントを2カ月ぶりに下回った。

また、『小売』はガソリン価格の高騰が消費マインドに悪影響を与えるとの見方が浮上してきたことなどから同1.9ポイント悪化。『金融』は貸出上限金利の引き下げ議論の台頭によりノンバンクを中心に悪化し、同3.2ポイント減と10業界中で最大の悪化幅となった。

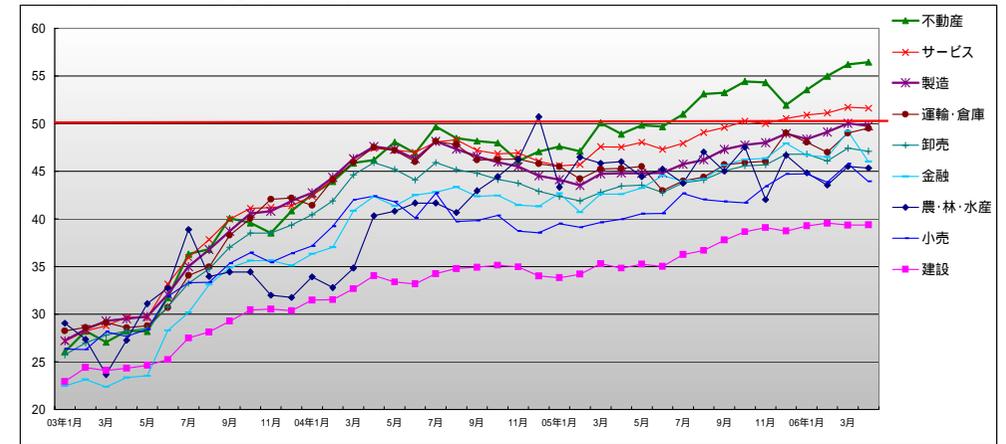
一方、『不動産』(56.4)はデフレ脱却期待が根強く、同0.2ポイント増とわずかながらも4カ月連続の改善となった。

業界別景気DI

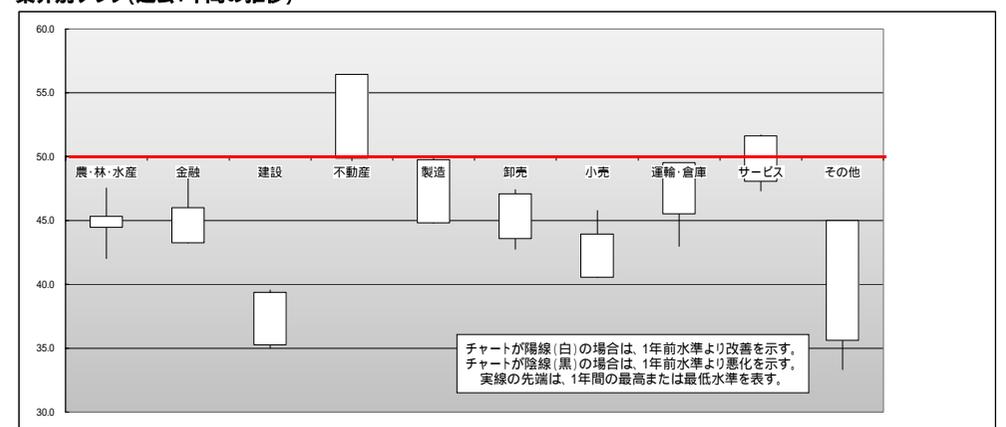
(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後	4月の標準偏差
農・林・水産	45.8	46.0	44.4	45.2	43.8	47.0	45.0	47.5	42.0	46.7	44.8	43.5	45.5	45.3	0.2	48.0	50.0	48.7	12.0
金融	42.6	42.6	43.2	44.5	44.0	44.2	45.6	46.2	46.3	47.9	46.7	46.5	49.2	46.0	3.2	49.4	49.4	49.7	16.0
建設	35.3	34.8	35.3	35.0	36.3	36.7	37.8	38.7	39.1	38.7	39.3	39.6	39.3	39.4	0.1	43.6	44.5	43.7	19.9
不動産	50.1	48.9	49.8	49.7	51.0	53.1	53.2	54.4	54.3	51.8	53.5	55.0	56.2	56.4	0.2	55.9	55.8	55.5	15.0
製造	38.9	40.5	40.7	40.5	40.9	40.5	41.8	42.2	40.8	42.8	41.0	41.7	42.6	43.2	0.6	49.4	49.9	50.0	14.7
卸売	37.9	37.8	36.6	38.0	39.5	39.3	39.0	39.3	38.2	43.1	42.9	43.9	43.4	43.8	0.4	48.3	49.0	48.4	16.0
小売	36.8	37.3	37.9	37.1	37.4	38.5	41.0	39.9	41.2	40.7	40.0	41.8	40.1	41.1	1.0	46.3	48.1	46.1	19.8
サービス	41.7	42.4	41.4	39.5	40.9	42.0	42.3	42.1	43.1	44.1	41.3	40.9	43.9	43.5	0.4	46.6	48.7	49.2	16.5
その他	39.7	41.3	39.1	39.9	38.8	40.0	41.0	41.5	40.7	41.5	40.0	41.7	44.6	44.3	0.3	46.9	48.7	49.2	15.1
全体	45.5	45.8	46.0	45.7	47.2	46.5	46.8	48.8	48.7	50.8	49.2	49.2	50.5	49.2	1.3	51.0	51.0	50.5	17.1
製造	46.8	45.4	46.6	45.1	45.5	47.7	49.9	49.7	50.7	50.8	50.7	50.8	51.3	50.8	0.5	53.3	53.3	50.5	19.1
卸売	53.1	52.4	52.0	53.6	53.9	55.1	55.5	56.2	56.8	57.7	58.0	58.5	59.2	58.7	0.5	58.3	56.8	53.1	17.6
小売	48.3	49.0	48.9	50.1	52.4	51.2	52.7	53.8	54.0	56.0	55.5	57.0	58.0	57.4	0.6	57.6	56.6	54.3	16.5
サービス	54.6	52.2	53.6	53.3	55.5	55.8	57.6	56.4	57.6	56.4	58.7	57.8	59.1	57.7	1.4	55.4	54.3	52.7	15.9
その他	47.4	46.8	47.9	46.2	47.6	50.9	51.1	51.4	51.4	50.5	53.1	50.8	54.4	54.5	0.1	56.7	56.0	53.3	17.2
全体	40.2	41.7	39.2	39.2	40.9	39.2	39.7	41.0	42.0	41.7	41.1	42.3	44.1	42.8	1.3	50.2	50.4	50.2	18.8
製造	44.7	44.8	44.8	44.8	45.7	46.2	47.3	47.8	48.0	49.0	48.4	49.1	50.0	49.8	0.2	52.3	52.4	50.8	17.0
卸売	40.7	42.0	42.0	41.1	41.6	41.5	42.2	42.3	41.3	41.8	42.0	41.0	42.1	42.8	0.7	47.9	49.3	50.4	15.1
小売	34.7	36.0	37.0	36.5	37.3	36.8	37.4	37.6	39.6	43.6	44.3	41.1	41.1	41.5	0.4	47.9	50.0	50.5	16.5
サービス	36.1	37.4	37.8	36.9	38.3	37.2	38.8	40.6	40.5	41.0	40.0	39.2	41.0	40.4	0.3	46.6	48.2	47.4	17.9
その他	38.5	40.1	40.1	39.8	39.2	39.8	41.1	41.5	40.8	41.6	43.4	42.7	44.5	45.4	0.9	48.8	48.8	49.6	15.8
全体	45.4	45.3	46.1	45.6	46.8	46.5	47.0	48.6	49.9	49.7	49.1	50.6	50.3	0.3	52.6	52.1	51.9	15.3	
製造	65.8	64.9	58.8	50.0	47.8	57.8	57.1	52.8	55.2	56.0	52.6	56.0	60.0	62.8	2.8	57.7	56.4	55.1	17.7
卸売	46.5	46.6	45.8	43.1	45.6	46.0	47.2	47.4	47.6	48.1	47.5	45.9	48.0	46.4	1.6	48.8	49.8	47.5	19.5
小売	46.4	46.9	47.0	46.5	47.3	48.3	49.3	49.6	50.1	51.4	51.3	52.0	53.2	52.6	0.6	53.7	53.6	51.6	17.7
サービス	41.4	41.7	42.0	42.0	43.2	43.6	44.3	44.6	44.2	45.0	46.1	44.1	46.2	45.1	1.1	49.0	50.2	50.3	16.1
全体	42.8	43.4	43.6	42.7	43.8	44.1	45.0	45.6	45.7	46.8	46.8	46.1	47.4	47.1	0.3	50.3	51.0	50.2	16.7
製造	42.3	43.7	44.8	44.6	45.3	45.7	44.9	44.4	44.1	46.2	45.3	44.9	48.0	46.4	1.6	52.1	53.6	55.7	17.9
卸売	36.6	37.1	37.2	40.4	45.3	44.7	43.4	46.5	46.8	51.8	50.8	46.3	49.2	45.7	3.5	50.4	51.3	52.6	14.4
小売	42.1	43.8	44.9	42.0	47.6	45.1	43.8	47.3	51.3	49.3	49.3	47.1	46.0	45.1	0.9	46.5	47.2	45.8	16.3
サービス	39.7	38.9	34.3	43.8	45.1	38.9	41.7	43.3	42.9	43.6	42.2	44.9	47.8	48.9	1.1	52.2	52.2	52.2	16.7
その他	45.1	43.5	45.3	44.0	45.1	43.3	45.0	46.4	49.3	46.9	49.3	48.3	48.1	49.2	1.1	52.8	54.0	54.4	13.8
全体	44.8	43.4	39.6	43.1	42.2	41.5	42.0	38.8	43.0	39.5	42.2	44.0	48.4	42.8	5.6	47.5	48.2	50.7	15.3
製造	34.3	35.8	36.3	35.9	38.3	38.2	36.9	36.0	37.6	39.3	38.3	38.5	41.2	39.4	1.8	44.3	44.8	46.0	16.8
卸売	40.6	40.9	44.7	42.7	44.4	44.7	45.6	44.0	45.9	50.2	49.1	49.4	48.0	47.1	0.9	51.6	51.9	51.3	16.4
小売	36.1	33.3	33.3	22.9	29.2	35.4	33.3	34.7	26.2	33.3	40.9	37.0	35.7	27.8	7.9	36.1	36.1	30.6	17.1
サービス	39.6	40.0	40.5	40.6	42.7	42.0	41.8	41.7	43.4	44.7	44.7	43.9	45.8	43.9	1.9	48.5	49.2	50.0	15.8
全体	45.2	45.3	45.5	43.0	44.0	44.4	45.7	45.9	46.0	49.0	48.0	47.0	49.0	49.5	0.5	49.5	50.2	50.2	18.5
製造	40.1	40.4	43.0	38.4	41.9	42.5	47.1	47.1	46.8	50.5	47.3	52.5	50.0	54.0	4.0	55.7	57.5	55.7	10.9
卸売	58.3	50.0	53.1	55.2	56.0	55.6	50.0	57.3	52.4	52.6	53.8	50.0	55.9	55.9	0.0	54.9	56.9	58.8	18.1
小売	50.0	48.3	43.8	48.3	50.0	52.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	55.1	51.5	50.0	1.4	51.4	52.8	51.4	10.7
サービス	45.8	45.1	45.1	44.6	46.1	45.9	48.4	47.5	47.7	48.9	48.9	48.8	47.6	49.3	1.7	52.2	53.0	52.0	11.9
その他	36.4	39.9	37.7	38.3	42.9	48.6	46.6	46.4	44.9	46.7	43.7	40.5	44.4	42.9	1.5	52.4	51.9	51.0	11.6
製造	43.5	41.8	44.3	46.3	45.0	43.6	44.2	43.7	45.8	46.3	45.0	46.5	46.7	46.8	0.1	50.6	47.4	47.8	12.1
卸売	51.0	52.4	52.1	53.8	49.3	49.3	50.7	49.3	50.0	46.7	49.1	49.3	49.2	45.5	3.7	48.5	48.5	49.2	18.4
小売	44.1	43.4	43.1	41.9	41.0	45.8	43.6	43.8	45.5	45.1	46.9	46.2	45.2	45.4	0.2	48.5	50.0	50.0	17.2
サービス	46.7	46.4	45.8	45.7	45.4	47.9	48.2	48.5	47.9	49.5	48.2	50.3	52.2	49.9	2.3	52.9	53.4	53.8	17.1
その他	52.0	52.7	53.7	53.6	53.9	54.2	54.2	55.2	55.5	56.4	56.0	56.7	58.1	57.4	0.7	57.8	58.0	57.3	15.5
製造	58.3	60.3	59.9	57.7	59.6	61.8	64.7	60.6	60.8	60.1	60.1	64.0	60.2	62.5	2.3	63.5	63.0	63.5	12.5
卸売	45.0	44.3	45.0	43.4	44.5	46.2	46.1	49.6	47.8	47.1	49.3	49.1	49.4	49.7	0.3	51.6	52.1	51.1	19.6
小売	48.9	47.2	49.4	46.1	46.2	47.7	47.2	50.8	48.9	48.4	49.4	49.4	47.8	48.8	1.0	47.6	49.1	48.8	16.1
サービス	42.9	50.0	52.1	52.4	47.4	50.0	51.9	52.9	50.1	51.1	51.3	54.2	47.9	6.3	51.0	51.0	50.0	13.5	
その他	47.4	49.1	49.0	47.7	50.5	47.9	51.6	50.7	50.3	51.0	53.1	50.2	52.0	52.8	0.8	54.3	56.2	56.2	16.1
全体	47.6	47.5	48.0	47.3	47.9	49.1	49.6	50.3	50.0	50.5	50.9	51.1	51.7	51.6	0.1	53.6	54.1	53.7	15.9
その他	36.5	36.7	35.6	34.1	33.3	37.3	36.0	39.5	38.9	40.8	36.7	42.5	43.7	45.0	1.3	48.3	47.5	42.5	23.1

業界別グラフ(2003年1月からの月別推移)



業界別グラフ(過去1年間の推移)

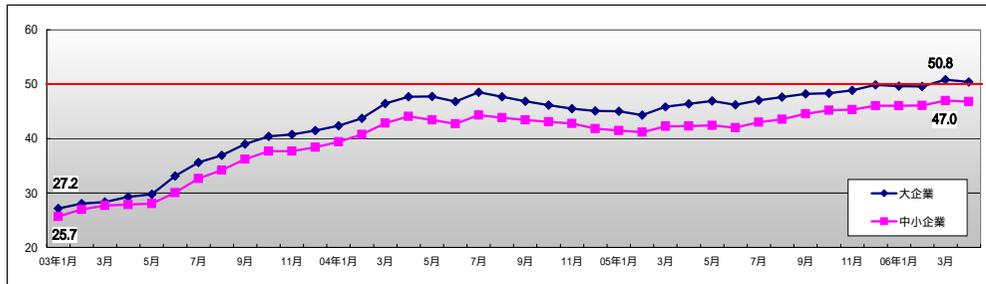


規模別: 大企業の悪化幅(0.4ポイント減)、中小企業(0.2ポイント減)を上回る

規模別では、大企業(50.4)、中小企業(46.8)とも前月比で悪化した。特に円高の進行や原油価格の高騰の影響を大きく受ける大企業が前月比0.4ポイント減と、中小企業(0.2ポイント減)より悪化幅が大きかった。

この結果、規模間格差は3.6ポイントと前月より0.2ポイント縮小した。しかし、依然として3ポイント以上の高水準が続いている。

規模別グラフ(2003年1月からの月別推移)



規模別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
大企業	45.8	46.4	46.9	46.2	47.0	47.6	48.2	48.4	48.9	49.9	49.7	49.6	50.8	50.4	0.4	52.2	52.5	51.8
中小企業	42.2	42.3	42.4	42.0	43.0	43.6	44.5	45.2	45.3	46.0	46.0	46.1	47.0	46.8	0.2	50.0	50.5	49.6

**地域別: 10地域中6地域で前月比悪化
地域間格差は集計開始以来2番目の高水準**

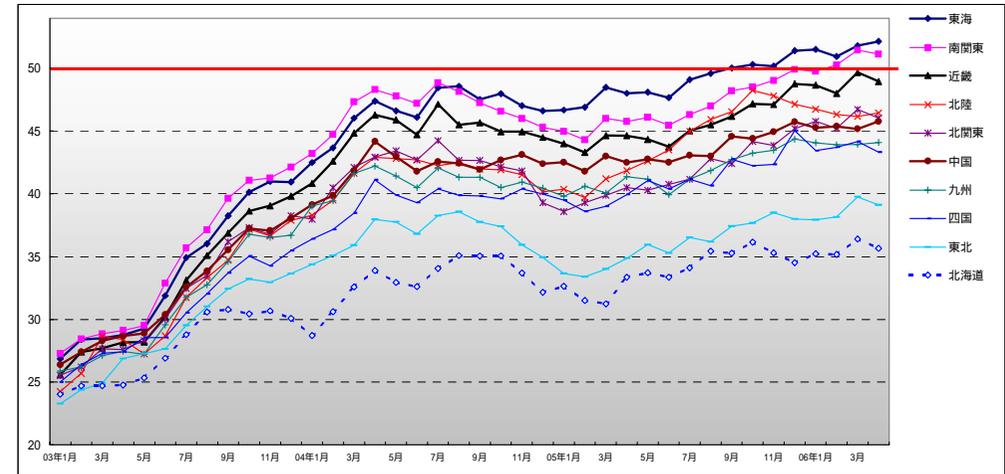
地域別では、10地域中『北海道』(35.7)、『東北』(39.1)、『北関東』(46.0)、『南関東』(51.1)、『近畿』(49.0)、『四国』(43.3)の6地域で前月比悪化した。

『南関東』と『近畿』は大企業の景況感悪化の影響が大きく、それぞれ3ヵ月ぶり、2ヵ月ぶりに悪化した。また、10地域中の最低水準が続いている『北海道』も、同0.7ポイント減と4ヵ月ぶりに悪化に転じた。

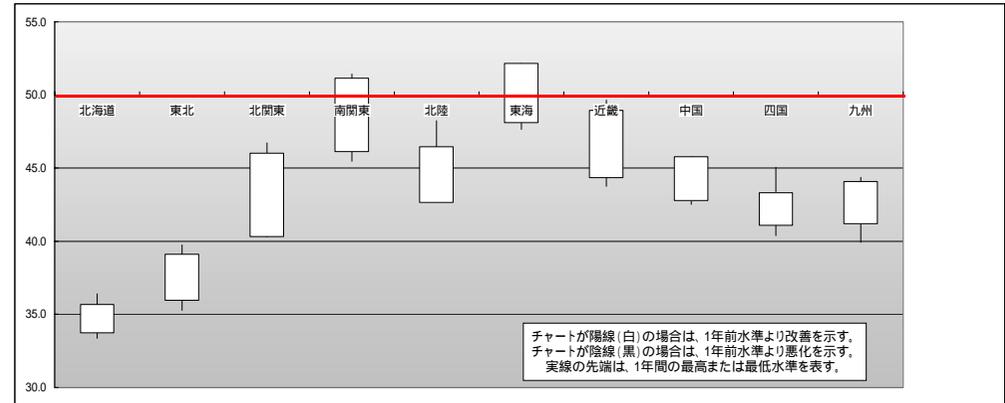
一方、『東海』(52.2)は自動車関連業界の悪化により製造業界の景況感は悪化したものの、好調な個人消費を反映して小売業界の景況感が大幅に上昇し、全体では同0.4ポイント増と2ヵ月連続して改善、10地域中の最高水準を維持した。

この結果、最低の『北海道』と最高の『東海』との景況感格差は16.5ポイントと2005年12月(16.9ポイント)に次いで集計開始以来2番目となっており、地域間格差は依然として高水準な状況が続いている。

地域別グラフ(2003年1月からの月別推移)



地域別グラフ(過去1年間の推移)



地域別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
北海道	31.2	33.4	33.7	33.4	34.1	35.4	35.3	36.2	35.3	34.5	35.2	35.2	36.4	35.7	0.7	45.2	46.4	44.8
東北	34.0	34.9	35.9	35.3	36.5	36.2	37.4	37.7	38.5	38.0	37.9	38.1	39.8	39.1	0.7	44.6	45.7	45.0
北関東	39.9	40.5	40.3	40.8	41.2	42.8	42.4	44.2	43.9	45.2	45.8	45.2	46.7	46.0	0.7	49.5	50.2	48.9
南関東	46.0	45.8	46.1	45.5	46.3	47.0	48.2	48.5	49.0	49.9	49.8	50.3	51.4	51.1	0.3	52.8	53.0	52.4
北陸	41.2	41.9	42.6	43.5	45.0	45.9	46.5	48.2	47.8	47.1	46.7	46.3	46.2	46.5	0.3	50.5	50.1	47.9
東海	48.5	48.0	48.1	47.7	49.1	49.6	50.0	50.3	50.2	51.4	51.5	50.9	51.8	52.2	0.4	53.0	53.1	51.3
近畿	44.6	44.6	44.3	43.8	45.0	45.5	46.2	47.2	47.1	48.8	48.7	48.0	49.7	49.0	0.7	51.6	52.3	51.3
中国	43.0	42.5	42.8	42.5	43.1	43.0	44.6	44.4	44.9	45.7	45.3	45.4	45.2	45.8	0.6	48.5	48.5	48.3
四国	39.0	39.9	41.1	40.4	41.2	40.6	42.8	42.2	42.4	45.0	43.4	43.7	44.2	43.3	0.9	46.5	48.3	47.9
九州	40.1	41.4	41.2	39.9	41.2	41.9	42.7	43.2	43.5	44.4	44.1	43.9	43.9	44.1	0.2	47.0	48.2	48.4

業界別の景況感「現在」(2006年4月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
農・林・水産	45.3	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資意欲が上昇傾向にある(養鶏) 好調な企業とそうでない企業とが混在している(養豚) × 牛乳の生産調整が続いており、酪農関係者だけではなく全体的にムードが良くない(農協)
金融	46.0	-	-	<ul style="list-style-type: none"> クレジットカードの利用範囲は、各種決済関連に広がり、取扱高は順調である(クレジットカード) ゴルフ会員権の売買はシーズン性があり、4月は例年良くない月であるためいいことはないが、昨年よりは悪くない(ゴルフ会員権) × 貸金業者は、高い金利で資金運用している一方、銀行は子会社の貸金業で利息を稼いでおり、競争が激化している(消費者金融)
建設	39.4	-	-	<ul style="list-style-type: none"> つくばEX関連工事の増加。県外では関東圏におけるSC、マンション、再開発事業など、職人不足を招いている状態が続く(石工事) × 公共事業の減少が続くなか、談合問題に端を発した低価格入札による下請け業者へのダンピング要請激化(とび、土木工事) × 新年度になり年度繰り越し工事もなく、新たに工事を発注する情報もなく、大半の建設業者は開店休業である(土木工事) × 談合、強度偽装、公共工事減少など建設業界は、よくなる要素が見当たらない。低価格入札による職人などへのしわ寄せが出てくる。既に、労務者を抱えた下請け業者の倒産と廃業を多く目にする(土木工事)
不動産	56.4	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 金利上昇傾向で購入の動きが強くなったように感じる(不動産仲介) 郊外型はマンション・建売とも供給過剰感があるが、中高級エリアでは順調な販売となっている。全体的には購買需要は高い(建売分譲) × 税制控除の解除や金利の上昇・耐震強度偽装問題の影響で、一次取得者の動きが多少鈍い。銀行も以前に比べて審査が厳しい(不動産仲介) × 高級品の売上が伸びているなか、当社のテナントはヤングファッションのコア的な商品の取り扱い店舗がほとんどのため、苦戦している(貸ビル)
製造	49.8	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中心産業の一つ、自動車メーカーの工場がフル生産状態なので、全体に波及効果が出ている(繊維製品製造) ペットボトルにしても、配送費にしても原油高の影響がある(飲料製造) × 北米産牛肉の危険部位混入に端を発した輸入禁止措置の影響による流通価格下落と消費者離れ(肉製品製造) × 耐震強度偽装問題で直近の工事が延期となった(建材製造) × 医療業界なので景気には左右されないが、大幅な薬価改定があったので業界としては大きな打撃(医療用機械製造)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
卸売	47.1	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 最高値を更新中で数量は変わらずも金額増加(非鉄金属スクラップ卸) デジタル家電がサッカーワールドカップに向けて生産増(化学品卸) 水産関連は燃油価格暴騰で青息吐息。食品関連全般に波及(水産品卸) × この春は意外と寒く、半袖などが動いていない(服飾品卸) × 生乳(牛乳)の過剰生産からくる乳製品相場の下落、買い控え。低温からくるソフトクリームの不振(乳製品卸) × 発泡酒やチューハイ等、安価な商品に集中。しかも特定の業態に偏重しているため、一定の利益確保は出来てもコストは下がらない(酒類卸)
小売	43.9	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 少し高くても、品質の良い物を求める顧客が増えている(服飾品小売) × 石油元売各社が仕切価格上昇を通知しているにもかかわらず、仕入価格とほぼ同値販売で市況が動いていることは異常(ガソリンスタンド) × 週末に天気が悪いのと、寒暖の差が激しいことが影響しているのか、例年だと春の需要期であるが、今年は盛り上がり欠ける(自動車小売) × 2006年4月に実施された診療報酬改定のため、廃業する薬局が増えてきている(医薬品小売)
運輸・倉庫	49.5	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産が輸出を中心に堅調で景気を牽引している(外航海運) 外航は引き続き良い。内航も2006年4月から備船料が上がったことで改善(船舶貸渡) 景気の回復傾向とともに旅行需要の伸びも見られ、やや明るい兆し(旅行代理店) 荷動きは全体的には良いため仕事量は確保できているが、過当競争の感があり、燃料の高騰にもかかわらず値上げが難しい(一般貨物輸送) × 燃料費高騰で低額料金契約の取引先の運行が厳しい(一般貨物輸送)
サービス	51.6	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 案件数増加、金額も増加気味。設備投資の積極性を実感する(システム開発) テレビ、新聞などのメディアが低迷で好転が見えない。一方、ネット広告、SPなどが伸びているが、基幹メディアの不調が不安要素(広告代理店) × 診療報酬マイナス改正にて収入が大幅に下がった(病院) × 公共事業・住宅産業ともに施工価格の下落が最低水準であり、仕事はあるが利益が出ない構造となっている(建設機械レンタル) × 需要はあるものの単価は安くなっているため利益が上がりづらくなっている(パッケージソフトウェア)

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

業界別の景況感「先行き」(2006年4月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
農・林・水産	3か月後	48.0	-	インフレが鮮明になれば会員権購入者が増えてくると思われる(会員権販売) × 原油高による仕入コストアップが懸念される(養鶏) × 燃料油高騰による収益圧迫懸念(水産)
	6か月後	50.0	-	
	1年後	48.7	-	
金融	3か月後	49.4	-	個人消費の持ち直し、設備投資の増加、雇用情勢の改善がプラスに寄与(地銀) 決済関連の取扱高は継続して上がっていくと思われるが、消費全般については、首相の交代、民主党の動向など、消費税、年金、高齢化などの諸問題により、半年後は不透明(クレジットカード)
	6か月後	49.4	-	
	1年後	49.7	-	
建設	3か月後	43.6	-	公共工事の入札制度は公取委の権限強化により一般公募が増加し、各自治体への参加機会が多くなってきている(電気配線工事) × 耐震偽装問題等が一段落しても、その対応策に苦慮しているのが現実。全てを解決するには建築単価の向上や確認許可までの期間延長が必要だがタイムリー性が鈍化しコストアップ要因に。また、過度のチェックを求められるために新たな手抜きを発生させる懸念もある(一般建築工事) × 発注元である自治体の財政が回復していない(土木工事)
	6か月後	44.5	-	
	1年後	43.7	-	
不動産	3か月後	55.9	-	物流関連企業の立地は積極的であったが、製造業の拡大移転および立地投資が期待できそう(土地売買) 将来の金利上昇が不動産投資にどれだけ影響を与えるかが不透明である(貸ビル) × 住宅ローン金利の上昇、増税による需要低迷(マンション分譲) × 人口が減少傾向にあり、需給のバランスがいつ崩れるかわからない(不動産仲介)
	6か月後	55.8	-	
	1年後	55.5	-	
製造	3か月後	52.3	-	個人消費の回復で夏季ギフトの改善に期待できる(水産加工品製造) クールビズで火がついたメンズのファッション需要に期待(シャツ製造) 住宅の品質が求められており、住宅用構造材の瑕疵保証、集成材柱、梁桁の市場が拡大中(合板製造) 自動車の生産レベルは、継続して高い計画にある(鉄鋼シャースリット) 原油価格の高騰から原材料の価格高騰となることが予想されるため、先行き不透明(電子部品製造) × トラック業界の2007年問題「国内トラック需要の頭打ち」が懸念される。輸出の動向により悪さ加減が決まると思う(自動車部品製造)
	6か月後	52.4	-	
	1年後	50.8	-	

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
卸売	3か月後	50.3	-	アジアを中心とする半導体関連の引き合いは活発化しているのよくなる(電子材料卸) × 金利上昇による一次取得者の住宅ローン利用の減少(サッシ卸) × 輸入食品に対しては5月29日よりポジティブリスト制度が施行されるため、今後の動向が不安定(野菜卸) × 酒税増減税はその幅が些少であり、減税商品は価格対応を迫られ、増税商品の売価は上げられないという状況が発生し厳しくなる(酒類卸) × 原油価格の先行き不安と競合エネルギー(電気)の台頭(石油卸)
	6か月後	51.0	-	
	1年後	50.2	-	
小売	3か月後	48.5	-	今後も業界において、増収基調は継続していく(中古品小売) × 消費税増税等、不安要素ばかりだから(スーパー) × 薬価改定で大幅な減収見込み。さらに2006年10月実施の老人医療制度の改定による診療抑制で、さらに減収の可能性(医薬品小売) × 5月も大幅な値上げ通告があり、価格転嫁できるか微妙。日本全体では景気回復に向かい、増収増益企業が多数あると報道されているが、地方ではほんの一部の製造業が良いだけで回復したとは言えない(スーパー)
	6か月後	49.2	-	
	1年後	50.0	-	
運輸・倉庫	3か月後	49.5	-	景気の底堅さに後押しされ、旅行シーズンの夏場に向け旅行市場の活性化が期待できる(旅行代理店) × 放置車両取締り強化による納入業務方法の煩雑化にて、駐車場の確保などによるコストアップが予想される(一般貨物運送) × 原油価格高騰もあるが、社会保険料の増加、配偶者特別控除の廃止などで、サラリーマンの財布の紐が固くなることで個人消費に懸念(タクシー)
	6か月後	50.2	-	
	1年後	50.2	-	
サービス	3か月後	53.6	-	大型のIT化投資からみて技術者不足は当分続く(受託開発ソフトウェア) ワールドカップがあり広告の好転が予測される(広告代理店) 都内においては東京ミッドタウンや八重洲駅前開発、外資系新築ホテルなど建設投資が続いているので環境は良い(ビルメンテナンス) 放送業界もデジタル開局でかなりの投資もあり、経営は厳しい。ワンセグ、ネット等動きは早く、1か月先が見えない(放送) × 公共事業はネット入札となって現実にかかなり低い水準で落札され始めており、結果として更なる悪化が予想される(建設機械リース) × IT関連に進む傾向が強く、媒体の分散化により多方面への対応が必要となり、投資に対しての回収が難しくなると推測される(広告代理店)
	6か月後	54.1	-	
	1年後	53.7	-	

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万262社、有効回答企業9,445社、回答率46.6%)

(1) 地域

北海道	493	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	906
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	597	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,476
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	563	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	608
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,286	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	309
北陸(新潟 富山 石川 福井)	451	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	756
		合計	9,445

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	25	小売	飲食料品小売業	56	
金融	117	(420)	繊維・繊維製品・服飾品小売業	39	
建設	1,200		医薬品・日用雑貨品小売業	24	
不動産	215		家具類小売業	15	
製造	飲食料品・飼料製造業		344	家電・情報機器小売業	42
	繊維・繊維製品・服飾品製造業		115	自動車・同部品小売業	46
	建材・家具・窯業・土石製品製造業		248	専門商品小売業	129
	パルプ・紙・紙加工品製造業		102	各種商品小売業	63
	出版・印刷		190	その他の小売業	6
	化学品製造業		352	運輸・倉庫	313
	鉄鋼・非鉄・鉱業		417	飲食店	29
	機械製造業	414	郵便業・電気通信業	17	
	電気機械製造業	331	電気・ガス・水道・熱供給業	12	
	輸送用機械・器具製造業	74	リース・賃貸業	143	
(2,747)	精密機械・医療機械・器具製造業	70	旅館・ホテル	35	
	その他製造業	90	娯楽サービス	52	
	卸売	飲食料品卸売業	376	放送業	22
		繊維・繊維製品・服飾品卸売業	197	メンテナンス・整備・検査業	113
		建材・家具・窯業・土石製品卸売業	392	広告関連業	145
		紙類・文具・書籍卸売業	115	情報サービス業	328
		化学品卸売業	303	人材派遣・紹介業	32
		再生資源卸売業	13	専門サービス業	172
		鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業	347	医療・福祉・保健衛生業	55
		機械・器具卸売業	978	教育サービス業	16
その他の卸売業		381	その他のサービス業	115	
その他				20	
		合計	9,445		

(3) 規模

大企業	2,230	23.6%
中小企業	7,215	76.4%
合計	9,445	100.0%
(うち上場企業)	(367)	(3.9%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在、3カ月後・6カ月後・1年後)
- ・経営状況(売り上げ、仕入れ・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、設備投資、雇用)および金融機関の融資姿勢について
- ・会社法に関する企業の意識調査

3. 調査時期・方式

2006年4月20日～30日(インターネットリサーチ方式)

DI(景気動向指数)について

調査目的・調査項目

TDB 景気動向調査は、「国内景気の実態把握」を主目的として、各業界の現況・先行きに関する判断や各企業の業績・環境など、企業活動全般に関する調査項目について全国2万社以上を対象に月次で実施する統計調査(ビジネス・サーベイ)で、2002年5月から実施している。

調査先企業の選定

調査先企業は全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

DI算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス Diffusion Index)は、調査先企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。

非常に悪い (0)	悪い (1/6)	やや悪い (2/6)	どちらともいえない (3/6)	やや良い (4/6)	良い (5/6)	非常に良い (6/6)
0	16.7	33.3	DI=50 判断の 分かれ目	66.7	83.3	100

50を境にそれより上であれば「良い」超過、下であれば「悪い」超過を意味し、50が判断の分かれ目となる。なお、小数点第2位を四捨五入している。また、DIの算出においては、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、1社1票の単純平均の形をとっている。

企業規模区分

大・中小企業の分類については、中小企業基本法に基づいて業種別に以下のとおり設定している。

業界名	大企業	中小企業
製造業・その他の業種*	資本金：3億円を超える または 従業員数：300人を超える	資本金：3億円以下 または 従業員数：300人以下
卸売業	資本金：1億円を超える または 従業員数：100人を超える	資本金：1億円以下 または 従業員数：100人以下
小売業	資本金：5千万円を超える または 従業員数：50人を超える	資本金：5千万円以下 または 従業員数：50人以下
サービス業**	資本金：5千万円を超える または 従業員数：100人を超える	資本金：5千万円以下 または 従業員数：100人以下

* その他の業種には、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、金融・保険業、不動産業が含まれる。

** サービス業には、クリーニング業、物品賃貸業など、日本標準産業分類の大分類しサービス業に分類される業種が該当する。

©TEIKOKU DATABANK,LTD.

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。